

# 矢作川利水総合 (矢作川用水)

## 1. 用水のはじまり



都築弥厚  
銅像

矢作川では、江戸時代の初め頃から川をせき止め、田畑に水を引いていました。明治の中頃に明治用水や枝下用水など農業用水を作る動きがはじまりました。

この明治用水を考え、た都築弥厚さん(1765～1833年)は和泉村(現安城市和泉町)に生まれました。

都築さんは、水不足に苦しむ農民のために安城ヶ原の台地に矢作川から水をひく計画を立てました。水路をつくるにはたくさんのお金がいることから幕府にお願いしましたが、工事に取りかかる前に病気のためなくなりました。その後、都築さんの夢を実現させようと岡本兵松さんや伊豫田与八郎さんらによって明治用水が完成しました。

そののち、たくさんのお水が使われるようになったので、1961年(昭和38年)巴川上流に羽布ダムをつくり、1971年(昭和46年)矢作川の上流に矢作ダムをつくりました。

いっぽう矢作川では、建物をつくる時に必要な砂を川底から大量に採って水面が下がってしまい、用水に水を取り入れられなくなったので、水を安定して配るための新しい頭首工や取水口や水路をつくりました。これらは矢作川総合開発事業として進められ1988年(昭和63年)に完成しました。